

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 68

2019. 6. 30 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 68 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ 『新木津用水改修と黒川治愿』

令和元年 6 月 2 日（日）市民活動支援センター（ささえ愛センター）において「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ：『新木津用水改修と黒川治愿』と題して、近藤雅英氏（本会副会長）に講演していただきました。

参加者は 11 名でした。



講演する 近藤雅秀 氏



会場風景

―発表要旨―

黒川治愿は弘化 4 年(1847)生まれ、美濃国厚見郡佐波村(現岐阜市柳津町)の庄屋川瀬文博の第二子で、明治 2 年、京都の御所御用人黒川敬弘の養子となった。若草通り 2 丁目の河瀬医院は、その川瀬家の末裔である。明治 8 年、愛知県吏となり、土木事務に就いた。県令安場保和の案で、堀川の上流、大幸川を延伸、矢田川を伏越し、庄内川とつなぎ、新木津用水を庄内川につなぐ運河として一体運用する計画が練られ、これに携わった。明治 10 年に、矢田川までの区間が竣工し、この部分を後に、黒川治愿に因んで「黒川」とよばれるようになった。明治 13 年、初代土木課長に就任。明治 18 年に退官するまで、立田輪中の鶴戸川の延長、明治用水開門、入鹿池堰堤の改修、木津用水開門、乙川改修、堀川郷瀬川改修、宮田用水原樋増築などに取り組み、明治 30 年に南久

屋町で病死した。50歳だった。

I. 入鹿池の築造と入鹿用水 … 江戸時代、春日井地域の開発の礎となったのは、まず、入鹿池の築造とそれを水源とする入鹿用水である。開拓を旨とした藩の方針もあり、田楽の鈴木佐久右衛門を含むいわゆる6人衆が発起人となり、不毛の台地の開発と水を確保する計画であった。それまでは、耕作に必要な水といえば、雨池の利用に頼らざるを得ない状況で、入鹿池の築造は、幼川(五条川)などを「銚子の口」で締め切り、人造池を設け水不足解消しようとするもので、寛永10年(1633)のことである。寛永12年に用水が引かれ、開拓の道が開かれた。水の乏しかった春日井地区では、春日井原新田・長斉新田・上条・大手・田楽などに水がもたらされた。

II. 古木津用水の開削 … 古木津用水の開削は、慶安元年(1648)に着工、同3年に竣工。まず、用水の大井堀を犬山の西の木津(こつつ)に設け、南の小口村で五条川へ流したが、後延長して新川に達するようになった。しかし、春日井地域へは通じなかつたので、新木津用水の開削が急がれた。新木津用水と区別するため、古木津用水という呼び名になった。

III. 新木津用水 … 入鹿用水がわずかに潤していたこの地域も、新田の開拓が進むと、まかないきれなくなり、春日井原の開拓計画とあいまって**新木津用水の開削**が不可欠となり、寛文4年(1664)の開削で、丹羽郡の小口(おぐち)村(大口町)から、木津用水の水を引き、春日井で鷹来を経て朝宮で八田用水に合流し、勝川から庄内川へと流されることになった。この結果、田楽・大手・上条新田・味鋤原新田へ水が供給されるようになり、この地の開発が進んだ。



IV. 新木津用水の改修 … (1)新木津用水の完成は見たものの、井末の村では開発に見合った水が得られず、開墾のために用水の拡幅改修による導水の増加を渴望し、味鋤原新田・春日井・上条新田・如意申新田・稲口新田・和爾良・下原新田の7か村が協議して、明治10年、改修への測量を開始した。当時の用水の幅は2間(約3.6m)だったのを、3倍の6間とし、名古屋の堀川へ通す計画であった。ところが、関係する上流部の村では、拡幅で田を削られることなどを理由になかなか納得せず、一旦は挫折を余儀なくされてしまった。(2)しかし、和爾良・下原新田を除く5か村は、計画の実現を諦めなかった。木の工事費4千円を負担し、さらに水利の改修に2万円必要となり、1万円は県が借入れ、残り1万円は村から人夫を出すことで、明治16年には工事が始められた。この間、明治15年には下原新田・和爾良2か村にも働きかけ、加えて、下原新田・勝川明慶新田・八田与吉新田・勝川・如意・豊場の賛同を得



て着手にこぎつけた。この段階にいたっても、なお費用の分担、人夫の提供などの具体化により、上流部の異論は解消できず、工事推進の村々にも、余りな費用の増加に異論を唱え、夫役に応じない村もできるようになり、工事の進行に差し支えが生じる有様であった。

(3)ここで登場するのが愛知県の土木課長黒川治愿である。これらの反対を説得して工事を進めた。どのように説得したかは明らかではないか、「監督と指導の宜しき」と、大いに寄与したことに間違いはない。また舟が名古屋に通じれば、物の輸送にも寄与すること多大あることを説いたことも想像できる。県が必要な土地を買い取る約束もした。などなどが説得の内容だったようだ。開墾地の畑・田畑の田成り地については、明治17年から10か年の価格据え置き、山林原野の田成り地には15か年の鍬下年期を認めたことを合わせて考えると、こうした条件を提示したことも、説得できた要因の一つと言えそうである。また、最後まで反対していた田楽村へ補償金500円を支払うことで同意が得られたことも見過ごすことはできない。

(4)工事は、明治17年5月の竣工。総工費は65万2千余円。開墾した田畑は719町6反余歩にのぼった。改修の結果、木曾川の水を犬山から引き、名古屋城の北を通り、堀川へ抜ける水路ができ、それまでの物資の運搬は、海路で熱田を大回りして、堀川をさかのぼっていた、それが直接新木津用水を下る近道で、大いに利するところがあった。運搬時間は大幅に短縮できると同時に、満潮時でなければ堀川をさかのぼれない不便も解消された。もっとも灌漑の水を必要とする6月11日から9月20日までは舟運も一服だった。

小牧に本拠を置く「愛船株式会社」も設立され、この運搬を業務とした。改修での用水路幅の拡張で下流部に大きな恵みをもたらした。なお、明治22年の村制の際、味鋺原新田は味の一字と美田の美をとり、味美村となった。また、名古屋の堀川に水を導くことに成功したのを讃え、永世に残す意味もあって名古屋城までの北までの水路機、黒川治愿にちなんで「黒川」と名付けられた。ここから生まれた地名もある。

V. **黒川治愿の略歴と功績** … (1)冒頭に略歴を載せた。(2)功績に対する表彰を明治



16年に太政官より受け、金50円を受けた。勝川町の表彰者推薦をした明治28年の申請書が残る。(3)改修記念

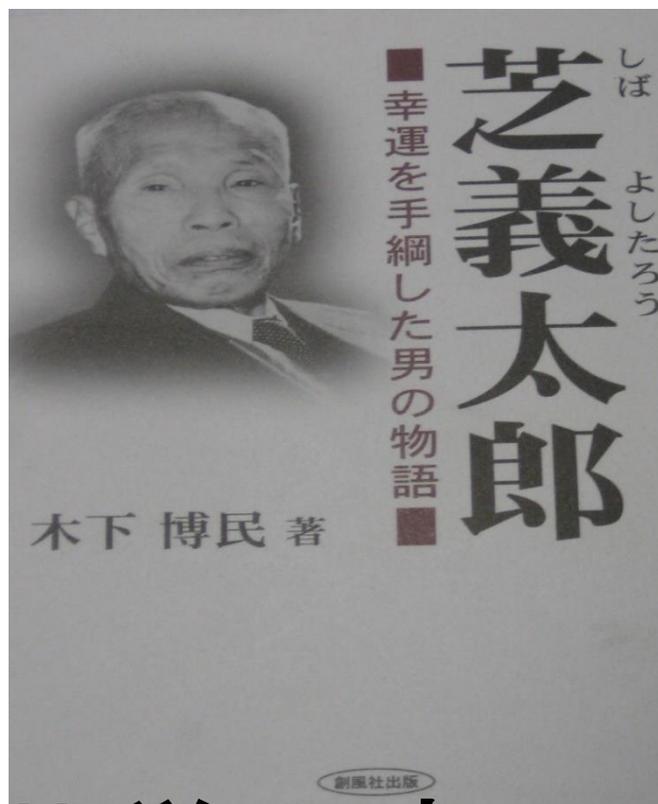
碑①堀尾茂助君碑(関田町)②旧木津用水改修碑(高山町)③上条新田開拓記念碑(中央公園南)④味鋺原新田改修記念碑(白山町)⑤黒川治愿遺澤之碑と報徳碑(追進町)⑥元八田開拓記念碑(下八田)⑦新木津用水改修之碑(高山町)

(記録：塚田忠雄)

〈次回案内〉

第 70 回

ふ
る
さ
と



春日井学研究 **フォーラム**

Forum テーマ：『芝炭鉱（株）と経営者芝義太郎』

講 師：塚田忠雄 氏（「ふるさと春日井学」研究フォーラム副会長）

日 時：2019年9月1日（日）午後1時30分～4時

場 所：市民活動支援センター（ささえ愛センター）2階

TEL：0568-56-1943（〒486-0837 春日井市春見町3番地）

※（非会員の方のみ資料代500円当日徴収させていただきます。）定員80名（定員で切ります）

※申し込み 事務局：〒486-0825 春日井市中央通り2-9 TEL・FAX0568-82-5973 会長 河地 清

mail address:kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/> **ふるさと春日井学検索**